

[神戸市] 神戸市立義務教育学校港島学園 【義務教育学校】

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：豊かな心・確かな学力・健やかな体の育成
- 所在地：(小学部校舎) 神戸市中央区港島中町3-2-3
(中学部校舎) 神戸市中央区港島中町3-2-2
- 児童生徒数 (H29. 5. 1時点)



学年	小学部(前期課程)								中学部(後期課程)					前後期計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒数	103	95	95	96	83	87	11	570	78	74	65	5	222	792
学級数	3	3	3	3	3	3	3	21	2	2	2	2	8	29

- 神戸市概要：〔人口〕1,534,061人 〔学校数〕小学校163校, 中学校83校, 義務教育学校1校

2. 導入経緯

- ・平成23~25年度「小中一貫カリキュラム教科(英語)拠点地区」推進校の指定 (神戸市教育委員会)
- ・平成26~27年度「小中一貫教育モデル事業」モデル校の指定 (神戸市教育委員会)
- ・平成26~28年度「小中一貫カリキュラム教科(算数・数学)拠点地区」推進校の指定 (神戸市教育委員会)

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 『学力向上』を目指した小中一貫教育の推進

形態・施設

- 施設隣接型

- 旧港島小学校(小学部校舎)の職員室を小中合同職員室に改修(平成26年)
- 小学部校舎と中学部校舎間の移動は徒歩5分程度

教職員体制

- 校長: 1名配置
- 小中一貫教育コーディネーター: 指名あり

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例: 「英語活動」
- 区切り: 6-3
- 行事: 前期課程修了式・後期課程進級式

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制: 第6学年で一部教科担任制(社会科, 算数科, 理科, 「英語活動」)
- 乗り入れ: 中学部教員が, 小学部の算数科, 理科, 「英語活動」の授業へ

児童生徒の異学年交流

- 小中合同リーダー研修(第6学年~第9学年)
- 学園文化発表会(小学部と中学部が互いに見合う児童生徒音楽会も実施)
- 小中合同運動会における小中合同応援団(第1学年~第9学年)
- 特別支援学級の小中合同授業
- 第5, 6学年からの中学部部活動体験

市町村教育委員会等による支援

- 市費加配教員配置
- 小中一貫教育の効果測定(学校評価アンケート・生活アンケート分析)



学園構想

めざす子供像

自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人間

スローガン ふるさと港島から未来を拓く

教育目標

豊かな心	確かな学力	健やかな体
思いやりの心、しなやかな心を育む	基礎基本を徹底し、自ら学び、自ら考える	基礎的な生活習慣を身に付け、進んで運動に取り組む
①あいさつ ②道徳教育の充実 ③人権教育の充実 ④言語活動の充実 ⑤音楽、園芸(小学部) ⑥実技教科(中学部)での表現活動の充実	⑦系統性のある教科指導 ⑧共働授業、少人数授業の推進 ⑨英語活動の充実 ⑩パワーアップタイム、 教課後学習の充実 ⑪自学自習の定着	⑪体力の向上 ⑫規則正しい生活習慣付け ⑬保健衛生面の意識向上 ⑭食育の取組

※太字(特に重点的に取り組む項目)

[▶ 次頁へ](#)

相互乗り入れ指導を導入することにより、次のような効果が期待されます。

- ・中学校の専門性を生かした指導を取り入れることにより、小学校での発展的な指導が充実する。
- ・小学校の教師と中学校の教師がチーム・ティーチングを行うことにより、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善が推進される。

神戸市立義務教育学校港島学園では、中学部の教師が小学部第5、6学年の算数科、理科、「英語活動(教育課程の特例)」に乗り入れ指導を行っています(平成28年度)。特に算数科に重点を置き、「共動授業」として取り組んでいます。

● 港島学園の「共動授業(乗り入れ指導)」

個に応じた指導を丁寧に行う小学部教員の授業に、教科の専門性を生かした中学部教員が乗り入れる授業。

<乗り入れ指導の体制(平成28年度)>

教科	第5学年	第6学年	乗り入れ教員
算数科	週3回	週3回	3人
理科	週1回	週1回	1人
英語活動	週1回	週1回	1人

次の授業展開例は、中学部(後期課程)の数学担当が小学部(前期課程)の第5学年算数科に乗り入れ、チーム・ティーチングで指導を行った「共動授業」の事例です。

【第5学年 算数科学習指導案】 単元「比べ方を考えよう」 ※ 港島学園授業研究会(平成29年1月30日)より抜粋

● 指導に当たって

本単元の指導に当たって、小中の教員が合同で授業に当たる強みを生かしたい。1つは、小学部の教員が児童の思考により近い具体的な思考をヒントとして提示し、中学部教員が「～の場合はどうだろうか」など一般化した考えを導く役割を担うようにする。

● 本時の授業展開 (第一次 第1時, 第2時)

- 本時の目標 割合の意味を理解し、基準量と比較量から割合を求めることができる。

子供の活動	T1(小学部教科担任)	T2(中学部数学科担当)
1. 問題把握 ● バasketボールにおけるすべてのシュート数と入った数を比べる。 3試合目と4試合目のどちらがよく成功したのかを数直線の図を使って比べよう。	・表で見ると複雑に見えるので、表を見やすく整理したり数字に置き換えたりする。 (具体的な活動)	・「半分」や「50%」など、割合に関する発言を児童がした際に取り上げ、板書する。
どのように比べればよいか考えよう。		
2. 自力解決 ● 割合を求める数直線の図、式を作る。	・補助シートで数直線の図を描きやすくしたり、割合を捉えやすくしたりさせる。 (具体的な活動)	・「どうやって考えた?」「この数字が〇〇の場合は?」と問い、考えを一般化に近づける。 (抽象的な活動)
3. 学び合い ● お互いの数直線の図と計算を説明し合う。	・「10を1とみる」や「8は0.8にあたる」など、特有の表現に立ち止まり、児童と同じ目線で考える。 (具体的な活動)	・数直線における「1」や「もとにする量」という考え方を説明する。 (抽象的な活動)
4. まとめ ● 本時のまとめをする。	割合を使うと比べることができる。割合は、「比べられる量÷もとにする量」で求めることができる。	

専門的な立場で、
抽象的な考え方を導き出す



乗り入れ

(中学部数学科担当)

※ T2は、事前にT1と指導展開について確認しておく。

児童全体の理解度をT1とT2で共有し、指導の確認・修正を行う。

T1とT2の説明と児童の発言により、割合の考え方を具体的な段階から、抽象(一般化)に推し進めていく。

5. これまでの成果と課題、今後の取組

「共動授業(乗り入れ指導)」を行うことで、児童は小学部と中学部との学習の段差が解消され、中学部教員との交流も増えることで、中学部に進学する心理的抵抗は低くなりました。一方で、小学部と中学部の教師がお互いに意見を出し合い授業を作り上げていくことで、互いの学習方法や内容を理解でき、教師の個としての授業力向上につながる事が期待できます。

来年度以降も、T・Tに限らず中学部の教師が中心となる授業など、より高度な授業を展開できるように研修を重ねていく必要があります。